

特105

453

卯印  
卯印

くさの  
の  
白  
か  
お



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>19</sup>m 1 2 3 4 5

始





特105

453

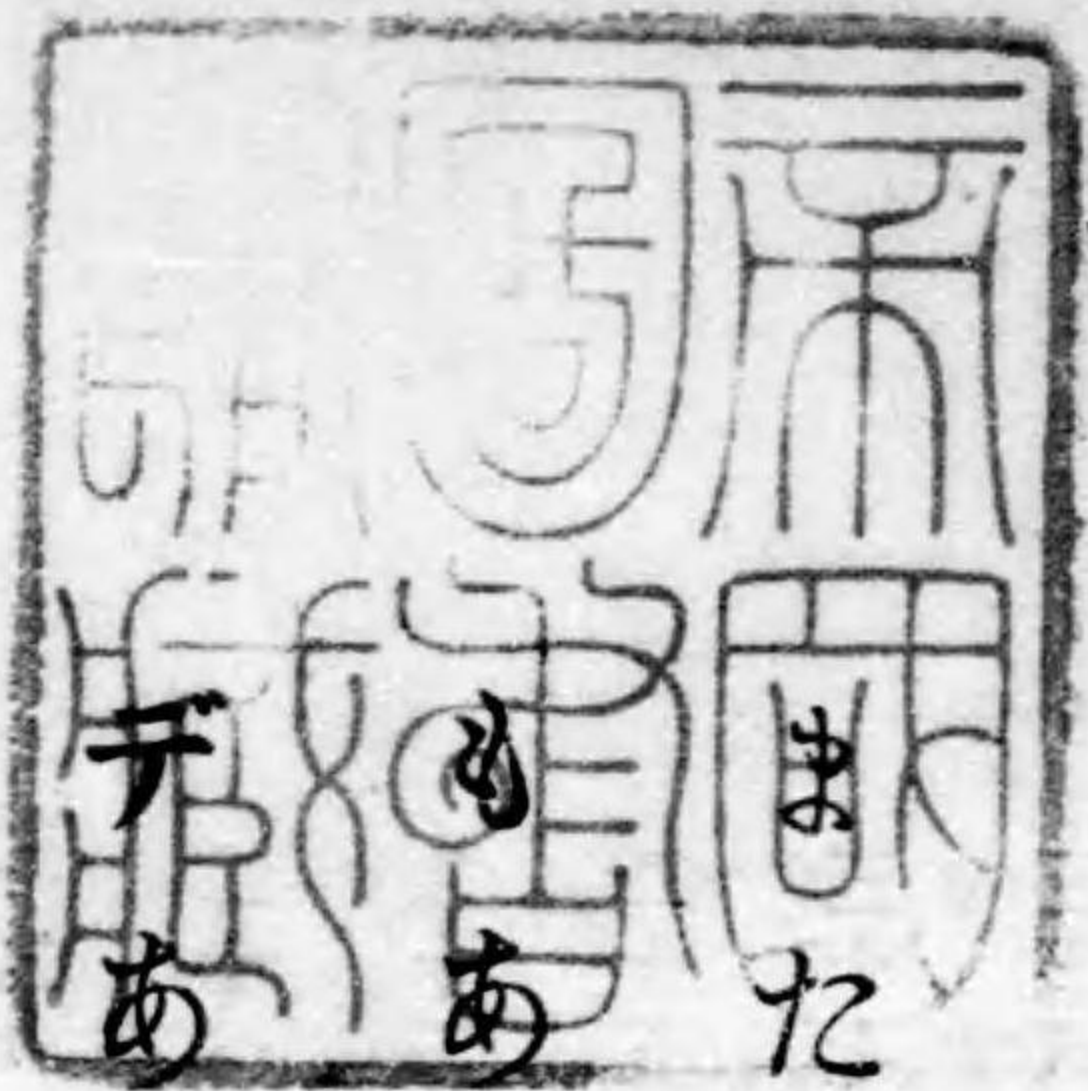
前印  
後印

くすの  
の  
目  
か  
び





特105  
453



この冊子は金儲けの廣告ではありませぬ

また虚名を衒はんための吹聴で

りませぬ

りませぬ

讀んでイヤ氣はなく解して面白  
いものであります

大正  
10 4.23  
内交



正 誤

八ページ三行目折は折と訂正す

十二ページ五行目以下に欠とあるは總て缺と訂正す しててはしてもと訂正す

二十ページ十行目辨は辯と訂正す

二十二ページ以下に眷屬とある文字は總て眷屬と訂正す 廢は廢と訂正す

二十五ページ十一行目以下に箇人とあるは總て個人と訂正す

三十七ページ初行の頭に多の字を入れる事

三十八ページ十一行目輿は論と訂正す

四十ページ初行目國くは如くと訂正す

くすの日かけ

即事而真

左の一編は私が時々の談話いたしたる節々を集めたる筆記でありまして勿論筋だちたる文章でもなければ書冊なごではありません唯筆記を刷物にかへた迄のつまらぬものでありますが御交友のかたくへお正月の年玉にかへ進上いたします御笑讀下たされば甚だしき仕合に存じます

尙ほ刷りたる時少々あまりてゐますれば諸君の御友人にて私は御面識なき御人にも御紹介下さりますれば御一報しだい有合せだけはさし上ても宜しふござります



右の次第でありますれば豫しめ御願ひいたして置きますが御読み下ださるなれば失禮ではあります。が御目と御頭むりごを空虚カラにして何一物も御溜めにならぬやうに願ひます御目や御頭むりの中に宗教くさいごか名もなき邊鄙の老翁の書き集めたるものごか種々の御考へがすこしでも滞溜いたしてあれば夫れらのものが邪魔になりますして充分私しの上るごが御得心になりにくいのであります。ます食物にいたしても胃中に何物かが滞溜してあれば折角の御馳走も食べて不味でありもし強て食へる時は身体の害になります。それが空腹のさきなれば何ほご不味のものも食べて美ましく身体の滋養になります。ればこんなつまらぬ寢言同様のものも御目や御頭むりのカラのさきに

は面白く御覽に入るかと思ひてのことであります。

大正九年臘月

松永重太郎申上ます

世の人は眞言秘密ご云う事をカクスまたカクレタルなごご恰かも手品の種の如く思ふてゐますが此秘密ご申す事は大師も明らかに説き示されたる如く其教法が世に有りふれたる淺略でなく深遠であります。其限底が究め難く顯略なる教法に對して秘密ご説きました迄でカクスなごご申す意義ではないのであります。眞言の方より申せば他の顯略の教こそ遮情の邊に止まりまして夫れより以上を説かざれば否な説く事が不能であればカクスご申しても宜かるべき事であります。眞言は此顯略の教法の説く事が不能なる表徳の全部



を説明いたしませぬ教法でありますればカクス所るか大明示  
 でありますデありますれば眞言はダラニ門翻譯すれば總持  
 門でありますして眞言の宮殿に入りますには東西南北四維上  
 下十方無礙でドチラの門よりも這入る事を得る吾人の身口  
 意が悉く眞實々際で聊かの虚偽でなく虚偽其ものが眞實の  
 虚偽でありて虚偽の虚偽ではなく佛も地獄も語言や文字の  
 虚偽の佛虚偽の地獄でなく此身口意が佛であり地獄であり  
 まして行住座臥こころく眞實々際事に即して而も眞實で  
 ある身口意が眞言である飯を食ひて兒を産みましますも眞實で  
 ありますれば罪を犯して刑罰さるる事も虚偽ではない總て  
 其事は實際であります其例証は吾人が日々生存上總てが眞  
 言秘密であれば別に引証などは要する譯はなければ解り易

きたため左に一例を示しますれば

高松より屋嶋に行くに市外に出ると頑丈な一廓がありて  
 其中に柿色の衣服を被りて鐵鎖に繋がれたる多くの佛菩  
 薩が苦役しつゝあるのが見ゆます此佛菩薩は私共に向  
 ふて其電車の乗客よ我等が今この有様を見よ我等は汝等  
 の爲めの救済主であるぞ善因の善果ありて惡因の惡果あ  
 る事の實際を汝等に現實に示す汝等惡事をなして他人に  
 妨害をなしたれば我が今現在の如く自由を束縛せられか  
 る淺間しき有様なるのである汝等記憶せよ我等が今  
 の有様を熟視して決して惡事をなし他人に迷惑を被らし  
 てはならぬ志士仁人は身を殺して仁をなす我等は今我身  
 を斯の様に苦しめて眞實々際に惡因の惡果あることを汝



等に示教する我は汝等の爲めの佛である如來である昔日  
 釋迦世尊は衆生の爲め自身の身骨髄を施して生滅々已寂  
 滅爲樂の二句を聞き得て正覺を成し成佛したのである我  
 も又た此の如く苦役の身を汝等に現示す汝等よく聞け我  
 が説く教は顯略教の教師や坊主が教會壇や寺の高座で語  
 言や文字の虚偽の説ではなく眞實々際の眞言教法である  
 ぞ

是れによりまして前々の法將も遮情即はち言斷心滅までの  
 因分は可説であるが果分は不可説である乳の色の白く飲め  
 ば滋養になるごまでは説くを得れども乳は是である此乳を  
 かく飲みて此の通り壯健なりごは説くごごが能きない酒は  
 米ご水にて醸り飲めば酔ふものごは説けごも是れをかく飲

みて斯様に酔て本心を失ひ頗る愉快であるごは眞實に飲み  
 たる人にあらざれば説けない目に物見せて實物説教は語言  
 文字にては説けない果分の説教である松永重太郎は香川縣  
 の生れで色の黒き風貌の揚らざる白髮の老人であるなごご  
 因分ばかりでなく其老爺ごは此拙者である此吾輩が重太郎  
 であるご實物を明示するが即事而眞て果分の説教眞實々際  
 の秘密教である此眞實々際は廣大無邊であれば深遠にして  
 迎も淺略なる語言や文字にては説く事の不能なる究竟の全  
 部唯佛與佛乃能究盡ご云ふ無量無邊の一大法界を悉く説き  
 盡すのが眞言秘密の教法である  
 遮情ごは世間の所謂る絶對ご云ふ事で眞如法性絶離の境域  
 である眞如法性ごは或る一つの物を碎きて粉末ごし其粉末



を分析し又粉末とし最終に至り極微と名け極微が尙極微と認めらるゝなれば一物なるものである一物であれば方分ありて尙分析されるものである斯の如く際限なき境域が遮情である時間にしても過去現在未來の三世がある此中間の現在なる一刹那にも又三世あるべく其極々中間の一刹那彼の軸の中心の輪轉しつゝあるや否やの不可説の邊域が遮情である表徳とは此遮情の邊際を超過したる圓滿無礙の全幅でありて形以上の精神界と形以下の肉体と二にして不二、不二即一なるを表徳と云ふのである此故に眞言密宗には眞如即はら精神界のみを縁起として説かず眞如と全時に地水火風空の五大を識大と俱に六大縁起して説き此六大は無礙自在に相應して彼れ是れ不二即一であれば吾人の心神と肉体

とは二にして不二でありて肉体と心神と各別になりて吾人なるものが有るのではなく心神の自由に肉体が動作し肉体の苦樂は心神の苦樂であり心の思ふ事を口より出して語り口に語りたる事を身に實行して此身口意が平等にして相違せざる眞實なるゆへに三密平等の常瑜伽（瑜伽とは相應と云事である）なるを眞言と申すので有ります心には良からぬことごと知りつゝ身に行ひ心にもなきことを口先きばかり大言壯語して何等の實行もなきが如きは眞言でない邪教外道の法であります

尙ほ言の序でありますれば此に絶対と申す事を一寸説明致します世間の人は此絶対なる語言又は文字を何の考もなく無暗につかひまして吾輩は絶対的に反對なりと絶対多數



の政友會が絶対的に謝絶するなごご其絶対なるものが如何なる意味なるかを思はず唯反抗するごか他よりも頭數の多きごか拒絶する語の様に心得て居るが絶対ごは夫んなものではなく

絶対的反対ごはつまり賛成ごなるのである

地球的(相對)夜るは夜るを意味し

太陽的(絶対)夜るは晝るを意味する

絶対多數は多數でも少數でも何でもなし多少ごは相對の上よりの多少で絶対に多少がある筈がない  
謝絶するか受納するかも相對で絶対なれば謝絶する必要はない

片相手なきものは反對でも賛成でもなく比較せずして多少

は分らず謝絶するのは受納せぬ事で何にも絶対でも何でもないのである是れ等は佛教の能所ご云ふ事を知らない人々の中に誤り傳へらるゝことである能所ごは主客の關係で飯ご人ごは人を主ごせば人は能食で飯は所食であり文字は義理を詮すれば義理は所詮で文字は能詮である所有物あれば能有者あり(所有者ごは間違である)能有權者の所有權で所有權者なごご云ふのは間違である又た權ご云ふ事も世の人はある一つの指定的の如く考へ甲乙の中間に權なるものが存在してある如く思ひ誤り國の主權なごも一箇指定して此主權は君主に屬するの否な國民に屬するのご議論するが此權ごはハカリご云ふ文字で彼是平等に其中間を維持する平衡である彼れにも是れにも偏重して附屬するものではない



主權はかりでなく他の權も獨立して存在するものではなく保護者と被保護者の間の親權の如きも親に特別の權力を持たせたるものでなければ子に特別の強要を許す權力でもなく唯幼年者あるが爲め保護者を要するものにて此の何方か一方を欠く時は親權なるものはないのである債權にして義務の基礎上に設定させたる權理でありて義務より出發したる權理にあらざる權理は虚偽でありて辨濟の義務なきが如く權理は義務の裏義務は權理の表にして其片一方のみにて何の權もなきのである所謂能所の關係上中間を維持する上に仮りに權なる名はあるが自性ありて獨立に存在するものにあらざれば片一方へのみ偏重するものにあらずハカリの平等を保つと同じ理屈のものであるデあるから主權の如き

も治者と被治者の双方の間を維持する仮有のものにて片一方に偏在するものではないのであれば別にヤ釜しく議論する程のことはない

即とは他の間的を許さず直様である此故に即身成佛と謂は即成佛である身とは此の切りて血の出る肉身吾人の體軀の如きもの計りにかぎらず有形無形事理の内容が身と云ふのである宇宙萬法の内容が法身即ち大法界の内容でありて吾人の體軀の内容が人身である佛とは實の如く自心を知る自心が事理を闡明覺悟したのが梵語の佛陀にして略して佛と云い支那文字の覺である吾が邦語なればサトル合點したここで自心に了解し得心のできたのが即佛である何にも金箔附きの蓮臺上の偶像が佛でもなければ虚空の中に神があ



るに限りたことではない併しながら此サトルと云ここが學生諸君がアル一問題を解答するのも佛であり吾々も常に何事によらずサトリつゝあれども其一部分のみのサトリでありて全部のサトリではないのである然るに釋迦牟尼世尊世に出現して九十六種の哲理を説破し宇宙萬類の古往今來一切を覺悟して此全部悉くサトリたるは即ち我れである外のものではない此釋迦自身である此釋迦のサトリたる法身が大日如來である大覺者は此法身即宇宙萬類の總サトリであること説き示したるが故に大覺世尊と號し吾々如き一分一邊のサトリにあらずアラゆる萬類覺悟の表示である然るに此佛身を化身、報身、等流身、法身の四種に分ちてある化身とは父母より受けたる生身である飯を食て羅胡羅を産せたり入

胎出胎出家成道牟尼寂默の中に八萬四千の長々しき經を説き双樹の下にて涅槃に入られた身である報身とは吾々が現に富者もあれば貧乏人もあり壯健の男病弱の女等種々なるは皆前報の然らしむる所で世尊の如きは前世幾萬億却積集せる功德により斯る最後の果報を得たる身なるが如く前來よりの報酬身である等流身とは今の結果は元この原因に似たれば等でありて原因より生ずる結果であれば流であるツマリ三界六道類に隨てある吾々如き有様の身である法身とは吾々を中心として宇宙萬類日月星辰山川草木滿虛空中の一切を包容したる大法界身である此四種身は一箇の佛身を各方面より觀察したるものなれば各別のものではなく同一佛身である成とは大師も大成就の成にして小成の成にあ



らずと玉ひ大成とは法爾自然のことにて作爲的の成就ではなく平たく云へば元來とモトヨリと訓み即身は始めより佛である佛とは此身である此身を外にして佛なるものはなく佛即此吾人である世の人は成佛とは成はナルと訓みて佛にナル木が箱にナル糸が絹にナルなごと思ひ居れごもナルのではなく元來が佛である此意味に於て即とは當体が即なるが故に他のものを持合せて即之れであるなごこの如きでなく此もの即之れである此故に即位と云ふことも天皇即位で位即天皇である天皇と位と別々のものではない世の人が即と云ふ字にツクと訓して天皇位に即くなごの間違つた訓み方をして別々のものゝ如く思ふて居のは甚だしき誤謬である天皇に天皇なる位即はち階級がある如き意味に心得た

るは頗ぶる誤謬の甚だしきもので天皇は絶對にして不可侵なれば相對的の位階などがあるべき筈がないのである天皇に天皇なる位がありて臣民の一段上位にありと思ふが如きは非國民であるかゝる人々は我國體の如何なるかを辨へざる愚蒙のものである以下即位と云ふことと國體の特殊なる譯を説くべし

右の如く佛とはある指定したる一つの自性のあるものでなくサトルと云ふことにて佛身とは生身の釋迦如來とか金箔付きの偶像の如きものばかりでなく今此説明しつゝある眞言の理趣がナルホドと合點ができて了解したるのが佛即はちサトリであれば此今まで分らなかりし無明の醒めたる時が暗みが明かになりたる時で即はち除暗遍明の大日如來で



あるされば生身の釋迦も成正覺、正しきサトリを成せざりし以前は只の釋迦で如來でも世尊でも何でもなき唯一人の山中の仙人でありたるが六年の間山中にて種々考て修業したれども何にも考へ付て得る所ろがなく山を出て河水にて身心の汚穢を洗ひ去り後夜分に於て鼻端に淨月輪觀を修しハア―今まで考て居たここは總て相對的の有爲の相である有爲は生住異滅と四相變遷する無常である無常の法なれば無我である無我なれば苦である苦なれば空である是れ生滅の法であると目が醒めたる時が正しき徧智を成したる寂滅爲樂でありて寂滅とは相對の生滅を滅已したる淨樂我常の無爲絶對の大我真言道常恒不變の法門涅槃安樂の佛境界であると目が醒めたるが一切智々を成就したる大日如來であ

るサレバ此法身大日世尊の眞言道清淨句の法門は宇宙萬類の一切を悉く網羅したる大團圓の全部でありて之れを無上菩提と名くるのである

今まで箱入の娘が嫁入して結婚したるが細君でありて娘でも處女でもなく正眞正銘の力力である山中の仙人の如く無明中の吾々凡夫もハア―分つた了解したと正しき理趣の一切をサトリたなれば大日如來である

以上述べましたる所ろは多くの賢聖が私ども凡夫人の爲め佛の教經により論疏譯通されたる宗意であります然るに私ども凡夫人は愚痴無智にして垢穢多く薄福鈍根なれば半分片もサトル事が出来ません唯廣大なる加被力を信念して加來賢聖の無量の慈悲を感謝しつゝあるばかりであります



右に述べたる如く大日世尊は形以上より觀察したる智身と形以下より觀察したる理身と理智不二の法身でありて此法界体身は吾人の人身の如く心神の識大と地水火風空の五大と不離即一である我が大日本國なれば心神の天皇と肉体の國土人民と不離即一なる内容が恰かも人身なれば吾人の身体の如く大日本國なるを以て國体である生きたる身体に識心と肉体あるが如く生きたる國体にも天皇と國土人民とがある各々集合したる團體でなき一箇の物體に中心點あるが如く一物一體たる大日本の國體には國土人民の内容と中央本尊の天皇がある區々たる辨論にあらざる一箇の論體に議論の内容と意義ある如く建國の歴史を特にせる集合國民にあらざる大日本國體には國土人民の頭腦に常に天皇中心

の精血が充實してあるのである斯の如く吾人の身體と等しき大日本國體は天皇を中央本尊として此中央本尊の位地が大日本國である吾人の識心の絶對无限にして憶度分別し能はざる不可得の境界を超過したるが如く大日本國の天皇の位地も神聖にして語言心量を絶離したる所謂寥廓希夷の境界である此言亡慮絶の位地を表顯したるが即位式高御座出御の陛下にましますのである之れによりて憲法第三條には「天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ」と明記されてあるのである其聖徳の四海に光被して深宏なることは天太陽の如く除暗徧明である然るに太陽の光りは晝夜明暗あれども天皇の徳光は無礙普遍であれば太陽の日の字の上に大の字を加へて大日と云ひ天皇は中央本尊の本位本源なれば國を大日



本名つけ其國威を標明するには旭日章を用ゆるのである  
 大眞言法身の大日如來に四方四佛ありて此四佛に各々四菩  
 薩を脊屬として十六大菩薩を攝持するが如く天皇には中央  
 花芯より出だせる十六葉の菊花が御紋章である  
 斯の如く大日本國は軍林等の如き集合團の國家の組織では  
 なく根本は一株の櫻樹である吾々大和民族は此一本の櫻樹  
 に開敷したる六千萬朶の敷島の山櫻花である彼の集合團民  
 が其團中よりアル一家を抜出して或時は之れを推戴しある  
 時は之れを廢黜して一定の心神もなければ根本もなき國家  
 組織は全然特別なる大日本國である此故に吾々民族は年  
 代の經歷により遠近の差等こそあれ悉く天皇の脊屬である  
 他の國民の如く強者に力の及ばざる爲め服従したる如き臣

下ではなく天皇の赤子である金胎兩部に内外の脊屬あるが  
 如く大日本國には天皇を中央本尊として皇族の内脊屬と國  
 民の外脊屬がある大マンダラ身である  
 斯の如く天皇と國土人民の不離即一なる一身同體なる日本  
 國體の心神たる天皇の太御心は吾々國民の心であり吾々の  
 行動は日本國の行動でありて恰かも吾人の識心が吾人なれ  
 ば吾人の頭目四肢も吾人である如く天皇が日本國であれば  
 吾々如き國民も日本國である心神と肉体と常に相應する一  
 箇の人体一箇の國體である此故に忠君愛國と云ふも天皇ま  
 たは國家に對しての忠愛でなく悉く吾人自己の忠愛である  
 他に對するものではないのである諸君試みに諸君の手  
 または足をこゝに出し玉へ此手足は誰人の手足なるか諸君



の手足である手足が諸君なれば諸君の識心も諸君である手足と識心と二箇別々なる諸君でなく全く同一人の諸君である此故に吾々國民は君たる天皇の臣下ではなく神心たる天皇の膀股赤子である昔時仁徳天皇は「民ノ富ハ朕ノ富デアル」ご詔うせ玉ひ明治大帝は「汝臣民ト共ニ眷々服膺シテ咸ナ其徳ヲ一ニセン」ご詔らせ玉へり是れ等は皆な文章上民あるひは臣ご詔らせ玉へごも其御心ば吾々を赤子眷屬ご御いつくしみ玉へる有がたき大御心であるご恐れはかり奉るのである此の如き理趣であるなれば此間に於て何ものか君本主義何ものか民本主義ごか名くるものがあるべきや君でも臣でもなき唯一箇の身体一箇の國体の上に二箇の思ひをなすは愚なる見ご申さねばならない

此道理より推して吾々國民は吾が國家を組織する有力なる一部分である吾が國家に吾々一人を欠く時は完全なる國家ではなきごごを自覺せば吾々の出す一言作爲する一行動はみな大日本國の言動である然らば吾々の生命の如きも自己の生命なるご全時に大日本國の生命である其重要なるごごは最も大切のものである然るに世に此重要なる自己なるごごを思はず自己を唯自己のみの自己なりご獨斷して何等意義なき痴情の爲めごか又は一時の小利害小名譽の爲め此大切なる生命を易々ご處分するが如きは此上もなき不心得非道義であるかゝる行爲は一面より見る時は人間最重の生命を賭して潔白を保つは箇人の行爲ごして同情はあるも國家は此放棄したる生命が如何ばかり大切なりしやを考慮せね



ばならぬ如何に況んや何等の價值なき慙笑すべき自己本意の放棄に於てをやである能くく正しき思慮の上より判断して自己は自己のみの自己でなく國家の一分子たることを忘れてはならぬことである

涅槃寂滅は無爲無相である菩提は如虚空の法である然らば何故に此の無爲寂滅の無相を生身の釋迦が佛は我れである此釋迦であること説き牟尼寂黙なる如來が語言や文字にて八萬四千の長々しき有爲有相の經を説き有相色身の偶像を拜するのみならず眞言行法の事相は有爲であり不立文字なる字は有相の文字にして無言の言は言にあらずや何故に斯く事實と説明が矛盾なるやと云うに斯の如く有爲又は無爲と説くは眞實の無爲寂滅でなく相對的なれば有爲有相で

ある無爲無相とは此有と説き無と説く有無を超過したる絶對寂滅の法である一段痛切に詮ずれば相對と説き絶對と説く此相と絶を超過したるもの之れ寂滅涅槃の相である長爪が一切の見を受けずして是の見を受ける如きものでなく老莊が仁義を無視して虚無を説きつゝ虚無なるものを認定するが如きでない語言心慮を離れたる不可思議不可説の法である併し斯の如くなる時は吾人に於て何の証入する由もなく何等利益にはならない之れを以て此の寂滅無爲の菩提を因とし大悲を根本とし方便を究意として一佛乘道を二と説き三と説くのである語言心慮を超絶して侵すべからざる神聖を因とし總攬玉ふ所の統治權を根本とし我が國家を究竟として一武士道を文武の兩道と説き智仁勇の三と説くの



である此の如く妙法蓮花此の如く敷島の山櫻花を開示して  
 説かざれば吾人の阿字不生の菩提心國民忠義の奉公心を悟  
 入するに由なきを以である鏡面の汚塵を拭除するは面像を  
 反射せしめんが爲めである鴻毛の如き吾人の生命が大切な  
 るは泰山の如き國家の重擔あるが爲めである苦空无常无我  
 ご説く所以のものは絶對大我の常樂我淨を覺悟せしめん爲  
 めであるかゝる譯なる故に無爲寂滅の法の上に方便ハラミ  
 ツ満足して此絶離の境を説くのが眞言道清淨句の法門甘露  
 味の教である此理趣により寂默無相の如來が色身を現はし  
 て語言文字により種々の趣種々の性欲に隨ひ種々所宜門の  
 法を説くのである辨濟の誠意は證券捺印によりて相手方を  
 納得せしめ信念の標的には偶像其他の法方によりて悟入せ

しめ國家大權の發動は詔敕によりて發せられ神聖なる勞動  
 の光明は吾人筋肉の活動より起り大和民族の精華は發して  
 萬朶の櫻花に輝き萬世無窮の神的國運は歴代天皇の父母御  
 生身の御玉体によりて其御聖徳を仰き奉ることを得るので  
 ある法もし斯くの如くならば吾人は證入するに由なき  
 のみならず何等利益もなきを以である  
 大眞言身たる大日本身は上に述べたる如く法爾常恒の身で  
 あれば其壽量は固より長遠無究で始めあることなく始め  
 なきものなれば終りは勿論あることはなき不生不滅である  
 是れによりて教育勅語には「國を肇むること宏遠乃至天壤無  
 究」ご仰せられてある皇祖皇宗の遺し玉へる此眞言道句の法  
 門は古今に通して謬らず中外に施して悖らざる最尊最上の



道である此眞言道は法爾の道なるが故に人爲的造作したるものではない勿論釋迦弘法等が造作したるものでもない釋迦弘法は天帝とか孔老等に造作せしめたるものでもない釋迦弘法は造作するところを隨喜せぬのである**デ**あるなれば孔子なども述べることはするが作る事はせぬと自から説明しておる凡そ所作性のものは皆な無常でありて常恒不變のものではない非所作のものは虚空の如く常恒のものである之れによりて道の道とすべきものは道にあらざるに俱に道の道とすべからざるものも道ではなく此可く可からざるを離れたるものか眞實の道である此道を法華には一佛乘道と説き孔孟は古の道と名げ古とは**フルキ**と云ふのではなく正しき道である我國の皇祖皇宗の遺し玉へる斯道水戸の弘道の道近

頃流行語となれる武士道の如きである

武士道とは「**武士に一言なし**」我が口より出たせる此言は至誠の赤心より發して重き責任觀念より出でたる言なれば一たび出たせは必ず身に實行して之れを變更する如き二三の言ではなき唯一無二の眞言である眞言道である

之れを眞言宗には眞言道清淨句の法門と申し無比無過上にして天壤と究りなき常恒不變の道であります何故に非所作のものは常恒にて所作性のものは無常であるかと申せば此造作したる有爲の法は悉く因縁より生ずるものでありまして因縁生の法は元來自性のなきものであるなれば此の因と彼縁と和合したる結果が所作の法である其因とか縁とか**チラ**か一方が欠けたなれば結果はなく空である併し此本來



空なる而も今此通り現在する有である空も定め難く有も認め難き空にして有々にして空なるものを仮有と名け仮有なるか故に空と仮と一つにして中道實相と説くこともあります眞言には第一次に有を認めまして有空中と説きます吾々が今現在するは父母和合の因縁の結果である大海の波濤の如きは風水の和合したる因縁の結果である此の如く因縁生の法は有爲なれば無常であり本なくして今あり已有還無なれば常恒ではありませぬ此故に吾人に靈魂なご申すものありて命終して肉体を去り存在するものでなく唯吾人が造作したる業因が第二次の縁と和合して種々なる果を結ぶのである農夫が作りたる稻が米となり飯となるので農夫が米にも飯にもなるのでない之れを數取趣なる外道の妄計

より靈魂不死なご誤りて吾々の靈魂なるものが極樂又は天上に生るごか地獄に墮在すごか因縁をまたず直接趣く様に思ふのである吾々も極樂地獄へ因縁あれば趣かぬごも限らぬが作爲したる業因の如何により其業因の結縁の如何によるもので靈魂なるものが趣くのではない斯の如く因縁生の法は自性あるものではないのである凡ての法の中にて不生不滅のものは我が皇祖皇宗の遺し玉へる此眞言道より外には何ものもないのである若しありごすれば破碎さるべき妄計である眞言道は一異斷常の見でなく不一不異如化如幻の眞實實際の法で諸々戲論を許さない我、人、壽者等の認むべきなき如虚空の法である此故に吾人が認定して認定せずして妄計より出でたる善惡は完全なる善惡ではないので偽造



の善悪である然らば吾々日々生存する上に於て何物を標準  
 として進行の磁針となすべきや吾人が認定するを認定せさ  
 る善悪にして偽造なりさせは大に前途に迷はざるを得ず之  
 れによりて其磁針は自己の判断を去り専ら客觀の方面よ  
 り求めんとするに一部一局に限るよりは衆多の輿論に取ら  
 ざるべからず公衆の輿論は十目十指の指定したる嚴なる確  
 定である吾々はかゝる標準を目的として輿論の認定を前導  
 者として進行すべきやと云に此輿論なるものが衆多の希望で  
 はあるが頗ぶる不完全にして不道理のものである所謂群衆  
 心裡なる不安極まる不都合のものである此群衆心裡はご國  
 家の歴史を汚がし社會の組織を紛乱せしむるものはないの  
 である所謂醉魔的なる愚論で吾々が狂醉して精神錯亂する

ご全様である其實證は今更ら述ぶる迄もなく國家の歴史が  
 昭々として證據立てである外國の事柄又は古き例證はさて  
 措き且らく我國近代の例證を擧ぐるも彼の平清盛が法皇を  
 幽し奉り頼朝が朝憲を私し北條が陪臣を以て義時高時の如  
 き暴逆を敢てし尊氏兄弟の如き不忠不臣の行爲をなして憚  
 からず斯の如きは一面彼等の非爲を譴むるご俱に彼等姦雄  
 をしてかゝる行爲を許したる當時に於ける國民の多數が自  
 覺なく所謂國家觀念なき自己本意の輿論なるものを彼等が  
 害用したのである吾々箇人が醉狂する時は前後を顧みず狂  
 暴して他の姦佞の爲めに害用さるゝご全様彼等は醉的國民  
 の病魔に化生したる害蟲である國家國民が冷靜にして穩健  
 なる思想の時に於ては如何なる姦雄も其怪力を振ふに余地



なく彼等不忠の徒も何事も成し能はぬのである然るに其當時に於ける國民が彼等が其非行を覆はん爲めに目前の小惠を施す其目前の小利益に精神をウバはれ愚なる輿論が彼等に謳歌したるを以て斯の如き歴史を汚したのであるのみならず此醉的輿論が國家社會を害毒するところは國の内外に其例証は多々あるのである近時我國に於ける彼のポーツマス條約が氣にたらぬごか食物が不十分なるが氣に喰はぬごか其事實の如何を究めず一時發作的に喧囂して公私の財産を破損し狂暴を敢てなしたる如き冷靜に考へたなれば甚た莫迦くしき所謂群衆心理の輿論でありて常識を以て考ふれば何等取り得のなき醉的輿論である吾邦のみならず世界の各方面に輿論なるものゝ爲め苦しみつゝある良民は目前に

くの實例を示しつゝあるのである斯の如く輿論なるものは有害無益でありて善惡の標準などになるものではなく反對に社會國家を害毒するものなれば勿論吾々の善惡を考慮判断する参考にも材料にも何にもなるものではないのである若し然らば何故に明治大帝は五ヶ條の御誓文に「萬機公論に決せよ」と詔らせ玉ひしやと云ふに此御誓文の有難きことを辨へざる輩が妄りに此詔勅の意味を誤りたものである御誓文中の公論とは謂ふ所の輿論ではなく讀で字の如く公論である輿論とは前述の如く群衆心理の醉的愚論であるが公論とは公明正大の議論である建國の性情と其歴史によりて國各々其趣きを異にすれども既往を鑑み將來を慮んばかりたるが正議公論と云のである一時的發作の私論ではないので



ある我國の如きも有史以來既に二千六百年其上古に遡れば測るべからざる古き昔より未來幾萬劫に涉り何時如何なる時代に見るも正々堂々たる一點の批難すべきものなき頗ぶる完全なる正義公論である之れによりて公論とは必ず多數を一時に要せず上千古を貫ぬき下幾萬世に涉り變異なき所謂眞言道句の法門と合致したるものである之れを歴史に徴するに八幡宮の神勅を承りたる和氣清磨卿は當時に於ける滿朝百官朝憲を紊亂せんとする道鏡に隨喜したる輿論に反抗したる公論である楠氏が僅かなる手兵を以て河内の孤城に數萬の大軍を粉碎したるも當時北條が天下の人心を收攬したる輿論に反抗したる公輿である其外宗教上に於ても龍の口の日蓮流竄の身となりたる法然親鸞の如き冤罪は當時

に於ける腐敗したる宗教社會の輿論に反抗したる公論である孔子の春秋孟子の七編も皆な當時の輿論に反對したる公論である此等先聖古哲が當時愚なる輿論を顧みず之れを排斥したるは千古の卓論である之れによりて吾々も一時的に自己の利害にのみ着目して所謂輿論なるものゝ爲め國家社會の安寧を害し後世子孫の爲め嘲笑さるゝ如きは甚だ遺憾のここである一定の見を以て廣き長き方面より穩健なる思想の上に將來の幸福を企圖せねばならぬ徒らに他人の尻馬に乗り附和雷同して輿論なご喧争する人々は何事も成功するものではない現に成功し又成功しつつある賢明なる人々は獨立自尊の精神確乎不拔の見識を以て公論正義を基礎として他を顧みる如き人ではない現時流行の普通選舉の如



きも吾々國民は前述の國く一箇の國体の部分なれば建國の理趣を發布されたる性情の特別なる憲政治下の國民である彼の集合したる團體國民が強要して契約したる規定により政治機關を運用するものなごごは全然異なりたる國民なる事を自覺して輿論の要求なごご心得一時的淺き利己の考より永久的將來ある公論を忘れてはならぬ公論ごは明治大帝の下し玉へる憲法發布の御詔勅の第一句たる國家の隆昌ご臣民の慶福を御思召ある有難き御仁慈を感佩しての議論である斯の如く輿論ご公論ごは大なる異別がある間違てはならない夫れのみならず近頃一部の人々が論議する外國思想の社會主義ごか稱道するものも其民情に適合したる所にありては有益なるやも知らざれごも苟くも建國の歴史ご國民

性格の特別なる我國民が自己の性情を顧みず皮相の見解を以て一應の理想のみを鵜呑みにして彼是論議する如きは何の利益もなく有害の事である勿論眞言道句の法門廣汎なる佛教は總て如々平等の説ではあれごも此平等は差別の上の平等にして決して近頃宣傳する社會平等主義高き山を切崩して深き谷を埋め上げる如き平均主義ではない元來此差別の相は吾人々類のみならず宇宙萬類が悉く不平等でありて平等は差別の上差別は平等の上より割出したるものでなければならぬ

如來の誓願平等の圓音は總ての世間を警覺して正智見を開かしむる毒鼓であるも衆生は種々の趣種々の性欲にありて差別なる如く



太陽の光温は普遍に放射して平等なるも地上の卉木に大小ある如く差別の上に被らしむる平等の恩恵を被りつゝ、ある差別此差別と平等と表裏経緯をなしたるが眞實の差別でありて同時に平等である

如きはゴトシと訓み山の高きは海の深きが如しとか白馬の白は白人の白の如く長馬の長は長人の長の如くなご山と海とは差別なれども深さと高さの尺量は等しく白と長とかは白たり長たることは平等なれども人と馬とは差別である此如の文字が眞實の平等でありて又差別である八萬四千の經文は皆な此差別の理趣を如是と説き平等の意義を差別の衆生に平等に了解せしめん爲めの如如平等である要するに如は數學式のエコールである  $a+b=c$  となる中間の  $||$  平等で

ある五加三と八とは等しき數の平等であるが五加三は元來五加三にして八ではなく八はごごまでも八にして五加三ではない之れ此の五加三と八とは平等にして差別である若しも  $a+b=c$  にして  $\infty || \infty$  なれば何にもエコールの必要はなく同一のものである同と等とは差別でありて同でも等でもなく同と等とである此の如く眞言道句の平等は妙諦具足の平等でありて社會平均主義の平等とは全く異なりたるものである

地球の外皮に生存する人類は一大社會である此社會の一局部を限定して其性情等しき人類が集團したるが國家である國家は個人性を帶して自己生存の爲め体相用乃至本末究竟等に至るまで十如を具して生々活動するものである此故に



國家の各々は如の平等にして即ち差別の平等である此性情の差別なる國家に差別を無視して酒飲みと甘口に同一の嗜好を強要せんとする如き一樣平均の社會平均主義を實行せんとするは天理に逆行する不自然である所謂誤れる理想に囚れたる名相のみを知りて實體を究めざる愚論であるか、る論議は我が眞言道句の教門に違ふのみならず世間の道理より推究するも誤謬の甚だしきものである性情の異なる我が國家には決して容るべきものではない有害無益の主義である人身に適合せざる投薬はたとへ人參熊の胃も其人のためには無益にして有害である此社會平均主義を服用して自滅瀕死の境界にある國民は今現在目前に證據立つ、あるを見玉へ

國家と國家とが如の平等なる如く吾々人々も如の平等即ち差別である地位階級賢愚強弱一樣のものではなく學識優秀なる強き男子もあれば無學劣慧なる弱き女人もあり幸福なる富有者もあれば不仕合なる貧乏人もある賢強の人は多くの賃金を得愚弱なるものは少なき報酬に甘んずるは當然の結果である同じく人類なれば平均ならねばならぬ理屈ではあるが其人々の前生の宿報不完全に生活を餘儀なくするは忍士の有様である愚弱なる人が怠惰放逸にして勤勉努力する賢強のものご同一の分配を受けんとするは不自然でありて不平等である然るに人類の生存するには必ず物資を要す物資の生産には天然のものに吾人々類の智識と勞力を加重したるものである文化日々に進展すれば需要は増々加



はり需要の切迫に應じて供給を豊富ならしめねばならぬ此  
 限度なき供給を満足せしめんならば吾人は其智識勞力を  
 無限に應用せねばならない此の如きは人類生存の眞意義で  
 ある資本は此識力の活動を補助する一要素でありて人類生  
 活上に於ける唯一無二のものではなく恰かも識力と資本は  
 伊字の三點の如きである此三點の一つを缺く時は完全なる  
 生活は出来ないのである

羽翼なき鳥は飛ぶこと能はず棘の軸も油なき車は動かな  
 い

此三點が具足して活動するので輕重のあるものではない悉  
 く重要である之れによりて吾人々類の各階級は夫れ々其  
 身分相應の勤勉努力によりて適當の報酬を受け國家社會の

組織を完全にして共同生活の意義を全くせねばならぬ之れ  
 を以て明治大帝は五ヶ條の御誓文に「上下心を一にして盛  
 んに經綸を行ふべし」と詔らせ玉へり此大御心を恐れ慮り  
 奉りても吾々大日本の國民は自己のみの便利都合を考ふる  
 ことなく國家社會に奉仕せねばならぬ  
 かゝるハテシなき議論馱辯は無用として然らば吾人の神的  
 腦力は明日のここを今日前知する能はず無明の暗黒裡に前  
 導者なくば單獨に進行することは出来ないのである殊に吾  
 人の考にて最善なりとすることも往々にして惡結果となる  
 ことあり世の中に他人に聊かの迷惑をかけずして善行のみ  
 なす人が一向に稱賛されずして薄福不幸多く反りて利己一  
 遍なるか甚だしきは他人に難儀を被らしめて其人は安樂に



日を送るご云が如きは大きな疑問であるかゝる問題を解決して總てのここに萬遺憾なからしめんには如何にして宜しきや

世間の相は無爲である其善悪は最終究竟のものではない出世の相は無爲である無爲は賢聖の覺悟である有無を超過したる善悪は吾人々類の智識能力にては思慮して究竟するごご能はざる不可思議の幽玄である凡情を以て幽玄を推究せんごするは恰かも虚空に雲梯を架して太陽を手に握らむごする如きである幽玄ごは幻の如く化の如く如虚空の法である此第一義中道の相は凡情を以て憶度すべきものではない所謂唯佛與佛乃能究盡の境域である斯の如き不思議の法界を吾人の智能を以て推度する如き徒勞を敢てせんよりは唯

深く其功德利益を信念するにしくはない太陽は手に握らざるも其光温は吾人に被らしめつゝあるのである此信念加持の功德力は常に吾人を善導して安全の光明を以て吾人を照被しつゝあるのである唯其利益を受くるの厚薄は吾人が信念の程度による授くるものゝ偏頗ではないのである太陽の光温は普遍であるも盲者は光を見ず日かげの花は其温を被らぬのである之れ等は照らす太陽の缺陷ではなく受けざるものゝ罪である然らば自己の思慮にて如何程深き信念するも不幸薄福なりごて自暴自棄してはならぬ信念の深淺は信念する人の分量すべきものではなく信念せらるゝ神佛の納否如何にあるので天を怨み人を尤むる如きは信念でなく迷信である吾人對人關係にて吾人を信用するご否ごは吾人の



容喙すべきものではなく相手方の自由の意思である其間に吾人より彼是苦情を述ぶべき理屈のものではない唯夫れ一念無疑に至心歸命すれば無漏の功德は必然吾人を光明に導くのである吾人は此正しき信念の加持力によりて此加持力を指針として此暗黒の大海を安全に航進して彼岸に到達し得るのである此故に吾人が善悪を決定するには自己の淺薄なる智能を以てせず總て此信念の加持力を緯として善の方向に進行するには一念無疑の信念より外にはないのである信念の標的を定むるには各自勝手にして自由なれども徒らに邪見の妄計より出たる外道の教法又は餘乗と名づけて有餘の宗旨によりて定むべきものではない必ず正理と契合したる不壞金剛の正しき宗教に據らねばならぬ外道餘乗は正

理にあらざれば破碎さるべき邪說妄計でありて之れを信念するとも何の功德もなく反りて害毒となるのである

差別客觀よりして偶像を木石などと視る目を以てせば空は眞空にして何ものも吾人の心に信念すべき標的とはならぬここになる其所以は有と空とを各別に差別して中道の理趣を知らざる妄計なるを以てである

本來空にして而も色本來色にして而も空、又空、又色、此間の消息之れ中道實相の不可說空にして又不可思議の色である

無差別平等の主觀よりせば吾人を周圍する萬類は悉く吾人の爲めに存在する救濟主でありて空は眞空にあらず如實中道の空であれば空が神在と同時に木石の偶像のみな



らず總てが神在であれば之れを加持して信念する時は必ず功德利益が顯るゝのである  
 止を修すれば空となり觀を行すれば色となる空色本來平等にして唯一法界体を佛方便して止觀又は空色の二を説き此二の不二を三を説くのである是否立歎の二を設けて説かざれば論議の正鵠を求むることは不能であるを以てである

右の道理よりして吾等は我が皇祖皇宗の神徳を歴代天皇の聖徳を崇敬し奉るゝも眞言道句の宗旨を信念するのである此宗旨は我が建國の理趣でありて國民信念の標準である其故は吾人の身口意が即事而眞なれば世出世の悉くの法門は皆な此眞言道清淨句の法門でありて法爾自然の教である

る世に金剛なるものありて破碎すべからざる功德あるものであるが法爾の道理は此金剛の如く如何なるものも破碎すべく最強最寶のものである苟くも我が帝國の吾人國民は此金剛堅固の破碎すべからざる眞言道を信念して國家萬劫の大發展をなさねばならぬ

信念なるものは人類として是非とも必要缺くべからざる思想である人類の禽獸と異なる所以のものは此信念の有無如何によるのである如何に野蠻の人類と雖も苟くも人類たる以上のものは正邪はともかく何物かを信念するのである其中に於ても文化の優秀なる吾人は最も正しき思惟信念ならねばならぬ世に無宗教又は無信念の人ありとすれば夫れ等は皆な野蠻人に劣りたる禽獸と等しきものである吾人は此



信念の加被力によりて生存するものなることを覺悟し畢りて深く我が皇祖皇宗の神徳と歴代天皇の聖徳を崇敬し奉り併せて各自の信仰の正しき教旨を守らねばならぬ以上は私の現在の愚考であります誠に不學無智を顧みずつまらぬことを申述べましたがこの中にてつゆちりばかりにても理屈にかなない諸君が尤もであるご御了解下さるる節あらば私は此上もなき満足を得るのであります

合爪百拜

大正十年四月十五日印刷  
大正十年四月二十日發行

(非賣品)

香川県綾歌郡飯野村大字東二イ五十四番戸

著者 松永重太郎

香川県九龜市富屋町三十六番地

印刷人 高井敬三

香川県九龜市富屋町三十六番地

印刷所 都村活版所



170  
171

天  
五  
十  
年  
四  
月  
十  
日  
寫  
於  
滬  
上

再  
覽  
已

文  
人  
請  
承  
印  
太  
淡

五  
言  
詩  
共  
三  
首

白  
雲  
飛  
渡  
海  
關  
遠  
似  
飛  
鴻  
下  
海  
東  
風  
吹  
綠  
柳  
舞  
春  
風



終

